



突きを構えをとり笑顔を見せる岡田さん

輝いています

全国高等学校空手道選抜大会出場

ひと

おかだ 岡田 さやか さん

まっすぐな思いを力に

1月に開催された関東高等学校空手道選抜大会。北関東ブロック女子個人マイナス59級級で優勝に輝いたのは、埼玉栄高等学校空手道部員の岡田さやかさん（17歳・南町2丁目）です。26日から始まる第37回全国高等学校空手道選抜大会では、自身初の個人代表として、1対1で腕を競う組手の部に出場します。昨年11月に県大会を突破し、挑んだ関東大会は実力が伯仲した厳しい戦いの連続でした。それでも、「決勝では冷静に流れを判断でき、得意の上段逆突きで勝負を決められました」と振り返ります。そんな岡田さんが空手の稽古を始めたのは4歳のとき。

全国大会で入賞するなど空手に情熱を注ぐ父・三喜男さんの指導の下、兄・達哉さんとともに、自然とこの道を歩み始めました。けがに見舞われたり、試合に勝てなかったりとつらい時期もありましたが、「継続は力なり」の信念を胸に練習に励んできました。中学卒業後、「強豪校で腕を磨きたい」と、実力者の集う埼玉栄高校へ。正月以外のほぼ毎日、3時間以上の稽古に明け暮れています。もともと、三喜男さんの教えでオーソドックスなスタイルとは逆の、利き手の右手を体の前に構えて戦う岡田さん。相手の攻撃をいなすことにたけるなど、間合いの取り方が特長です。更には、ここぞという場面で間合いを一気に詰めて、顔面目がけて左手を鋭く突き出す、上段逆突きを武器に全国への切符をつかみました。間近に控えた全国大会に向け、「納得のいく試合運びにこだわり、勝ち上がりたいです」と、闘志を燃やす岡田さん。そして、高校生活の集大成ともいえる、夏のインターハイの表彰台も見据えています。「強くなりたい」。純粹な思いがこめられた拳は、未来へ一直線に向けられています。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.22 —



現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい 河鍋 暁斎 天保2年(1831) ~明治22年(1889)

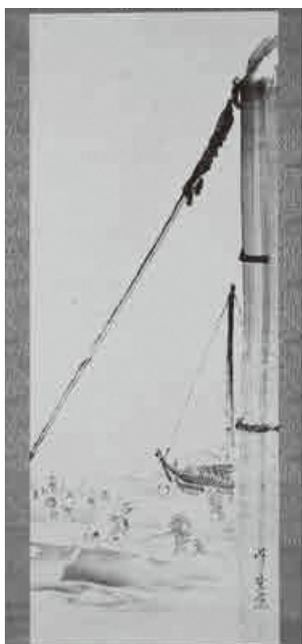
暁斎が12か月の風俗を1図ずつ12幅描いた「月次風俗図」シリーズの一つです。3月は潮干狩り。江戸時代、3月3日は潮干狩りの日でもあり、品川沖や洲崎などの名所へ出かけ、大人も子どもも思い思いに貝や小魚を拾いました。本図のような即興で描いた絵画を「席画」と言い、当時、会主が有名書画家を招いて「書画会」を開催しては、市井の人々の依頼に応じて、その場で書や絵を仕上げ、販売しました。暁斎も明治6年（1873）に会主を務めて書画会を開き、1日に200枚も席画を描いたことが知られています。

河鍋暁斎記念美術館 3月2日(金)~4月25日(水) 「あそびつくし」展

開館 午前10時~午後4時  
休館 木曜日 毎月26日~末日  
ところ 南町4-36-4  
入館料 一般500円 中学生~大学生400円 小学生以下200円 (20人以上の団体は要予約)  
詳細 同館(☎441-9780)



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご確認ください



暁斎筆 「月次風俗図 三月 潮干狩り」 明治7年(1874) 紙本淡彩

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます